県立学校自転車通学生ヘルメット着用推進モニター

趣旨

自転車通学生（高校・特支）の頭部損傷による重大事故を未然に防止するため、モニター600名を募集しアンケート調査及び普及啓発活動等を行い、ヘルメット全員着用に向けた気運醸成を図る。

背景

①現状、自転車通学をしているほとんどの高校生は、ヘルメットを未着用
②平成30年度高校生による自転車事故243件発生、そのうち頭部損傷事故76件（31％）
③頭部損傷は、死亡・重体・重傷事故につながる恐れ（自転車による死亡事故の6割強が頭部損傷によるもの：警察庁調べ）
④県内でも平成30年1月に重大事故が発生（脳挫傷による意識不明の重体）

取組

ヘルメット着用モニター

○高校生（特支含む）を対象に600名（1年生優先）を募集し実施　※2年間で1，200名（自転車通学生の10％）を対象
○モニター活動
・ヘルメットを購入し、自転車利用時に着用
・アンケート調査への協力
・モニター活動に対する報償費支給（上限5,000円）

ヘルメット着用に向けた啓発活動

○ポスター・チラシを作成・配布し、ヘルメット着用の有効性や意義について周知
○自動車学校と連携した交通安全教室の推進
○交通安全に関する学習指導案例を作成するなど、教科における交通安全教育を充実

効果

○ヘルメットを着用している生徒が身近にいることによる安全意識の向上
○交通安全意識の向上による自転車事故の減少
○モニター生徒へのアンケート調査結果を反映した着用推進策の実施

目標

令和３年度から全自転車通学生のヘルメット着用

☆交通安全意識の向上

☆頭部損傷の軽減